

里山林の整備と保全の取組を

交付金で支援しています

交付金の概要

森林・山村多面的機能発揮対策交付金は、各地で十分な管理が行われなくなった里山林の保全活動を行う「活動組織」（地域住民や地域外関係者等による3名以上で構成）の取組を支援する補助金で、平成25年度から支援を実施しています。

本交付金では、「メインメニュー」として、

- ① 里山の機能を維持するための活動（里山林保全活動） 最大12万円/ha
- ② 侵入竹の伐採・除去活動（竹林整備活動） 最大28・5万円/ha
- ③ シイタケ原木などとして利用するための伐採活動（森林資源利用活動） 最大12万円/ha
- ④ 路網や歩道の補修・機能強化、鳥獣被害防止施設の改良・補修（森林機能強化） 最大800円/m
- ⑤ 地域外関係者との活動内容の調整、地域外関係者受け入れのための環境

整備、これらの活動に必要となる森林調査・見回り等（関係人口創出）も支援しています。 最大5万円/年

⑥ 機材及び資材の整備
国からの交付金は、各都道府県に設置されている「地域協議会」を通じて、各活動組織に交付されます。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金の詳細はこちら
<https://www.rinya.maff.go.jp/y/sanson/tamenteki.html>



これまでの成果

本交付金により、これまで10年間で、延べ約1万3千の団体が、延べ約7万haの里山林を整備してきました。

令和4年度は1,109団体が本交付金を活用し、このうち里山林保全活動に695団体（63%）が3,777ha、竹林整備活動に434団体（39%）が702ha、森林資源利用活動に27

8団体（25%）が1,164ha、合計5,642haの森林整備に取り組みました（団体数には重複あり）。

都道府県別に見ると、熊本県（94団体）、岩手県（85団体）、北海道（73団体）、新潟県（64団体）、栃木県、兵庫県、長崎県（各53団体）で、特に多くの活動組織が活動しています。

活動組織の構成員数は平均19名で、10名以下の活動組織が50%を占めており、少人数での活動が多くなっています。また、年齢層は60代が最も多く、活動組織の高齢化がうかがえます。一方、令和3年度からサイドメニューに追加した「関係人口創出」には75団体が取り組んでおり、地域を超えた活動が広がりつつあります。

本交付金事業の成果として、森林の適切な手入れにより、森林の有する多面的機能の持続的な発揮が確保されるのみならず、各地域では、森林景観の改善や、構成員の増加、若い世代を含む幅広い年齢層の参加など、地域コミュニティの維持・活性化につながっていることが評価されています。



これまでの活動成果等ははこちら
<https://www.rinya.maff.go.jp/y/sanson/attach/pdf/tamenteki-38.pdf>





明るい里山



竹林整備後



雑草木刈払い



林内作業車で丸太の搬出



支援した機械で薪づくり

交付金の活用事例

令和3、4年度の活動実績から、代表的な事例を紹介します。

(1) 明るい里山でハイキング

神奈川県葉山町の「阿部倉山の森保全の会」では、ササや灌木かんぶくの刈払い、台風被害木の処理、疎開部分へのヤマザクラ、カエデなどの広葉樹の植栽に交付金を活用し、令和3年度には、3.1 haの森林整備を実施しました（交付金額・341千円）。

活動の結果、それまで暗く荒廃していた森林の景観が改善され、明るく安全な里山がよみがえりました。また、毎年度の植樹会は地方紙等を通じて紹介され、地域住民の理解につながって

います。さらに、森林内のハイキング道には地域内外から多くの来訪者があり、地域活性化にもつながっています。

(2) 整備した竹林でタケノコ生産

熊本県多良木町の「多良木町放置竹林再生協議会」では、放置竹林の整備に交付金を活用し、令和4年度には、7.2 haの竹林整備を実施しました（交付金額・1,764千円）。

活動の結果、持続可能な竹林管理を実現し、安定したタケノコ生産により、多良木町の知名度の向上につながっています。さらに、タケノコ生産で収穫時期がずれて伸びきった幼竹は「多良木メンマ」の材料としても利用されています。

(3) 自伐型林業による森林整備

群馬県みなかみ町の「リンカース」は、自伐型林業によって森林整備を進めており、間伐や竹林整備に交付金を活用し、令和4年度には、5.7 haの森林整備を実施しました（交付金額・627千円）。

活動の結果、地元みなかみ町とも連携し、薪などを生産するほか、町が家具メーカーと業務提携することにより広葉樹材を販売するなど、森林資源の利用が進み、地域活性化につながっています。

活動事例集はこちら

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/attach/pdf/tamen-teki-36.pdf>



終わりに

昨年は、多くのクマが集落に出没したこともあり、里山林の管理に対する関心は高まっています。本交付金は、獣害防止を目的とする森林整備活動にも活用可能です。ご関心のある方は、地元の地域協議会又は林野庁まで、お気軽にお問合せください。